

ふうた

なばたけ

風太の菜畑

The Rape Blossoms Field of "Futa"
by Aoki Galileo & Izumi Ann

青木ガリレオ&出泉アン





【詩篇 第 126 篇 5 節】

なみだ 涙とともに種をまく人は 喜びの歌とともに刈りいれる

Die mit Tränen säen, werden mit Freuden ernten.

(1)

むかし、あるところに海に面した緑豊かな村がありました。村では漁^{りょう}をしたり、畑^{たがや}を耕^{たがや}したりして暮らしていました。

しかし、若者^{わかもの}たちは都会へと仕事を求めて出ていくようになりました。やがて、畑^{たがや}も耕^{たがや}す人がいなくなり、草におおわれるようになつていきました。

そんなとき、村に大きな発電所ができました。村には都会からきて働く人も増えました。若者^{わかもの}たちも村で働くようになりました。自分たちの村から都会へ電気を送ることは、村の人たちの誇り^{ほこ}になりました。



村には、風太という少年がいました。風のように走る元気な子になつてほしいとお父さんとお母さんが名づけたものでした。

風太は上下つなぎの白い作業着で、麦藁帽子をかぶり、いつもニコニコと笑いながら林の中や畑の間を歩いていました。

風太は雨が降れば、首を直角に曲げて空を見上げ、大きな口を開けて、雨を飲みこみました。そして、風が吹けば、両手を広げ、「ひゅうー」と声をあげ、風とともに走りました。

